

常任委員会の審査から

総務企画委員会

茨城県北芸術祭の成功に向けた今後の取り組みは、地元への情報提供やボランティアの募集などを行う

問 茨城県北芸術祭の成功に向けて、地元市町との連携や県民参加が重要となるが、今後、どのように取り組んでいくのか。

答 今後、展示プランが具体化していく中で情報提供に努めつつ、市町との連携を進めるとともに、作品制作や運営補助などを行うボランティアの募集なども行っていく。また、地元が行う取り組みについても支援していく。

問 平成二十八年度から実施する、ふるさと県民登録制度における「ふるさと県民パスポート」の内容は。

答 東京圏の住民などを対象に「いばらきふるさと県民」として登録し、パスポートを発行する。登録者にはさまざまな特典を付与し、本県への継続的な訪問や滞在を促進することで、本県への二地域居住や移住につなげていく。

問 茨城空港は、東日本大震災直後に、成田、羽田空港に入れない航空機が給油のために利用するなど、ポテンシャルが高



KENPOKU ART 2016

茨城県北芸術祭

2016.9.17-11.20

www.kenpoku-art.jp

県北6市町において開催される茨城県北芸術祭

防災環境商工委員会

学生などに地域の情報を知ってもらうための取り組みは、就職応援サイトを拡充し、的確に情報発信していく

問 学生などのUIJターンや地元への定着を図るためには、企業を含めた地域に関する情報を知ってもらうことが重要であるが、そのための取り組みは。

答 地域を知ってもらうための情報については、現在の就職応援サイトを拡充し、生活情報や県内企業五百社以上の情報、Uターン就職した若手社員の情報も含めて、的確に発信していく。

問 県として、サイバーダイナミクスに続くベンチャー企業を育成していく必要があるが、今後の方向性は。

答 今回策定する「茨城県産業活性化に関する指針」においては、果敢なチャレンジとイノベーションによる活力ある産業の形成と雇用の場の確保を支援することとしている。また、「いばらき新産業創出ファンド」の活用により、資金面からも支援を行っていく。

問 地域防災力の強化においては、女性の視点を取り入れることが重要であるが、そのための取り組みは。

答 東日本大震災の経験を踏まえ、県地域防災計画に「女性への配慮」について記載を

設けたほか、自主防災活動を支援する平成二十七年年度の「自主防災リーダー研修会」においては、地域防災活動への女性の関わりについて講話を実施している。

問 第十七回世界湖沼会議の本県開催に向けて、市民活動を活性化するため、どのように取り組んでいくのか。

答 市民団体の活動を発表できるようなプログラムを会議に取り入れたことから、できるだけ早いうちに、団体を集めて意見交換会を開催し、意見や要望を伺うなど、市民活動を活性化させながら開催準備を進めていく。

(ほかに、クラウドファンディングの活用、不法投棄対策なども質問)

COMPANY

いい顔で働ける企業。

本県の就職応援サイトにおける企業情報

保健福祉委員会

新たに設置される子ども政策局の目的とは、結婚、妊娠・出産、育児の切れ目のない支援を行う

問 四月から組織再編により新たに子ども政策局が設置されるが、その目的と業務とは。

答 結婚、妊娠・出産、育児というライフステージにおいて、より効果的なサポート体制の整備を進め、切れ目のない支援を行うとともに、ひとり親家庭の生活支援や学習支援などさまざまな課題に重点的に取り組む。併せて、関連施策を推進する他部局との連携を一層強化していく。

問 地域で高齢者を支えるため、介護施設の整備に併せて、在宅医療や介護のサービス提供が必要だが、体制整備に向けた県の取り組みは。

答 現在、モデル事業として、在宅医療と介護の専門職間の顔の見える関係づくりや情報の共有化などに取り組んでおり、在宅医療と介護との連携強化を推進している。これらの成果を県内に広め、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会の実現を目指す。

問 県立中央病院は、婦人科のがん治療の拠点という位置付けも求められていると思うが、所見は。

答 婦人科がん患者数が急激に伸びている中、県立中央病

院は、県北・県央地域で本格的に婦人科がんを診ることのできる唯一の施設である。婦人科腫瘍専門医が三名おり、手術枠を増やして、待ち時間の解消に取り組んでいく。

問 県立中央病院の地域連携システムには、市内では十四の医療機関が参加しているが、利用頻度にばらつきがある。PRして、システムの導入、利用促進に努めるべきでは。

答 患者の紹介・逆紹介の件数の多寡で利用実績に違いがある。システムでは、カルテ情報および放射線画像を提供しており、必要に応じて利用してもらっている。今後は薬局への利用拡大も図っていく。(ほかに、障害者の就労、産科再開の状況なども質問)



放課後子ども教室での活動の様子